

科目名 Course Name	開講年次	開講学期	曜日・時限
保育実習Ⅰ Child Care Practice I	1年・2年	通年	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格	履修上の制限
4単位	実験実習	選択 (保育士養成課程必修)	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目			
保育士養成課程必修科目			
同時に履修しておくことが望まれる科目			
保育実習指導Ⅰ、保育士資格取得に必要な科目			
担当者に関する情報			
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
高橋登美子・大塚登	講義棟3階・ 本館2階	適時対応	授業中に指示します
授業の概要			
保育所(園)および児童福祉施設での実習に臨み、その保育施設の機能や入所児の理解を深める。入所児や職員との交流を通して、保育士の職務理解、更に職業倫理、そして、子どもの最善の利益の具体化について学ぶ。			
授業の目標			
①実習体験により、保育所(園)および児童福祉施設の機能と役割を具体的に理解できるようにする。 ②教科の内容を踏まえ、入所児に必要な働きかけや適切な支援を保育実践の中から総合的に学び確認できるようにする。 ③保育の計画、観察、記録及び自己評価等についてを明確なものにすることができるようにする。			
授業の方法			
保育実習の必要性と保育の実践方法を考えながら、保育所(園)にて11日間(実質時間90時間以上)、児童福祉施設にて11日間(実質時間90時間以上)の実習に取り組む。 実習施設によっては土曜日、日曜日、祝祭日の実習、また、行事や園外活動にも参加する。			
学習の成果(学習成果)			
①実習体験が、保育所(園)および児童福祉施設の機能と役割の確認につながり、保育士の仕事に対して責任と自覚を持つことができる。 ②入所児の発達や環境による保育の学びが保育課程と指導計画の明確化につながり、保育の場で活用することができる。 ③保育計画、支援計画の必要性を認識し、更には記録に基づく省察と自己評価ができる。			
授業のスケジュールと内容			
【保育所における実習】			
保育所(園)の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所(園)の機能と保育士の職務について学ぶ。			
(1) 保育所の役割と機能について理解する。 (2) 保育の1日の流れを理解し保育の展開に参加する。			
(3) 子どもの観察やかかわりを通して、発達過程を理解する。 (4) 保育計画に基づく保育内容の実践を観察する。			
(5) 生活や遊びの一部を担当し、保育技術の習得を目指す。 (6) 職員間の役割分担とチームワークについて確認する。			
(7) 保護者とのコミュニケーションを通して、家庭・地域社会を理解する。 (8) 子どもへの援助や関わりを考察する。			
(9) 専門職としての保育士の役割と職業倫理に向き合う。 (10) 実習記録を省察し、自己評価によって今後の実習の修正を図る。			

【児童福祉施設等における実習】

児童福祉施設等の生活に参加し、施設利用児への理解を深めるとともに、児童福祉施設等の機能と役割、そこでの保育士としての職務と業務内容について学ぶ。

- (1) 実習施設について理解する。
- (2) 養護の1日の流れを理解し、参加する。
- (3) 施設利用児の観察やかかわりを通して、施設においての子どもの欲求を理解する。
- (4) 支援計画・援助計画を理解する。
- (5) 生活や援助などの一部分を担当し、養護技術の習得を目指す。
- (6) 職員間の役割分担や連携について理解する。
- (7) 子どもの心身の状態に応じた対応に留意しながら生活環境を共にする。
- (8) 安全および疾病予防などの健康管理・安全対策を理解する。
- (9) 施設における専門職としての保育士の役割と職業倫理に向き合う。
- (10) 実習記録を省察し、自己評価をする。

保育所(園)実習、施設実習、ともに明確な課題と目標を持って各項目の実習内容を実践する。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	100%	実習施設における評価基準により評価された5段階評価に基づく。評価2、評価1は、成績不可に値する。(5:優れている、4:やや優れている、3:普通、2:やや努力を要する、1:努力を要する)
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容(態度含む)		
その他		

教科書と参考図書

保育実習の手引き:佐野短期大学
実習施設において必要な知識と技術のテキストについては各自用意する

履修上の留意点・ルール

「保育実習指導Ⅰ」の授業を必ず履修する。「保育実習指導Ⅰ」の多欠席や課題未提出がある場合は、保育所(園)実習に臨むことはできない。保育士必修科目の不可や欠時不認定科目が多数の場合は、実習担当教員と面談の上実習の可否を判断する。実習に臨む態度や意欲を明確にし、実習施設に対して適切に行動することを望む。(状況に応じて、実習延期や実習中止を検討する。)